

A N N U A L R E P O R T 2 0 2 0

年 次 報 告 書



EXPO'90
FOUNDATION

ごあいさつ



公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

御手洗 富士夫

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さま及び関係者の皆さまに謹んでお見舞い申し上げますと共に、感染症のいち早い終息並びに地球と人類社会のよりよい未来が参りますことを心より祈念申し上げます。

さて、当協会は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の「自然と人間との共生」という理念を永く継承発展させるため1991年の設立以来、様々な事業を行ってまいりました。

2020年度は、世界が新型コロナウイルス感染症の脅威にさらされ、我々の生活や事業の進め方が大きく変わる中、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」を始め、予定していた多くの事業の延期や中止等を余儀なくされました。その中においても、コスモス国際賞受賞者や協会事業に関連ある学識者による国際WEBシンポジウムを開催し、アフターコロナにおける環境問題への取組等の提言をいただきました。また、花の万博30周年の記念事業として、メモリアル展示をはじめ、新しい緑のあり方を探ると題したWEBフォーラムを行い、花の万博の理念の広がりや効果の検証、各団体等との連携、協力事業等を行うことができました。その他、助成事業におきましても、一定の成果をあげることができました。

2021年度は、当協会設立30年の節目を迎えますが、コロナ禍において、地球環境の重要性が再認識され「自然と人間との共生」という理念を掲げる協会の果たす役割りは一段と増しているものと思われまます。皆様方におかれましては、引き続き、協会事業に関心をお持ちいただき、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本書は、2020年度の当協会の事業の取り組みをまとめたものです。ご一読いただき、各事業の趣旨並びに取り組みについてご理解をいただければ幸いです。

花の万博 30周年記念「メモリアル展」



博覧会名誉総裁・皇太子殿下（花の万博当時）



天皇皇后両陛下（花の万博当時）

(参考)



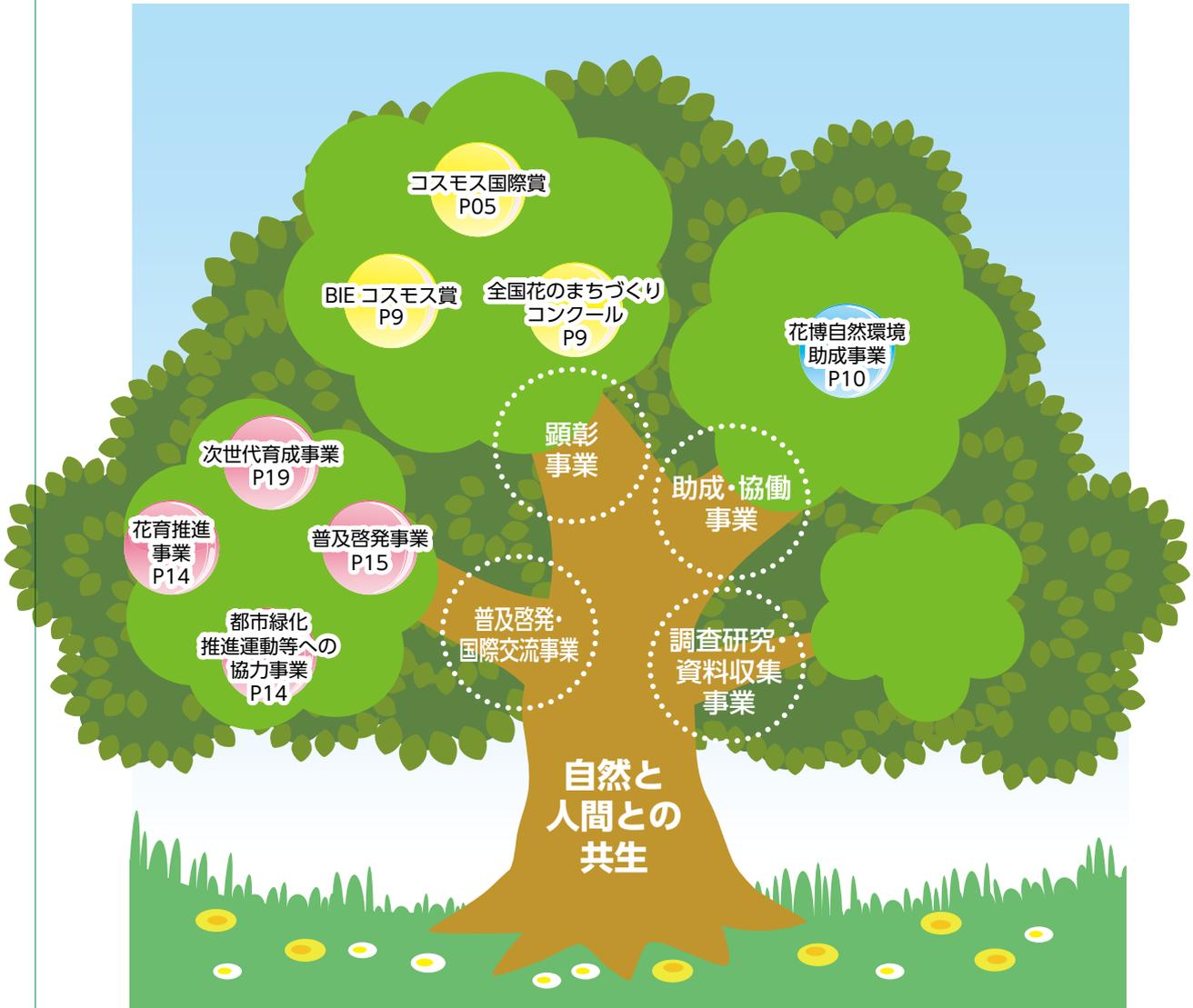
花の万博 10周年記念事業



花の万博 20周年記念事業

事業概要

公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という理念の継承・発展につなげる事業を実施しています。



設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会にたずさわった者の責務であるとする。

そのため、博覧会にたずさわった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

平成3年11月1日

顕彰事業

1. コスモス国際賞

「自然と人間との共生」という花の万博の理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」という。)の2020年(第28回)は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の懸念から、令和元年度より実施していた推薦書の取りまとめのみを行い、受賞者の選考及び授賞式等の関連開催事を2021年に繰り延べました。

なお、コスモス賞歴代受賞者によるポストコロナを展望したコラムを情報誌に掲載した他、国際WEBシンポジウムを開催しました。(詳細別掲)

委員会

コスモス国際賞委員会 令和2年4月現在(50音順)

委員長	尾池 和夫	京都芸術大学学長
副委員長	山極 壽一	京都大学総長
委員	秋道 智彌	山梨県立富士山世界遺産センター所長
委員	浅島 誠	帝京大学特任教授
委員	池内 了	総合研究大学院大学名誉教授
委員	磯貝 彰	奈良先端科学技術大学院大学名誉教授
委員	武内 和彦	公益財団法人地球環境戦略研究機関理事長
委員	中西 友子	星薬科大学学長
委員	西澤 直子	石川県立大学学長
委員	林 良博	独立行政法人国立科学博物館長
委員	鷲谷いづみ	東京大学名誉教授
委員	和田英太郎	京都大学名誉教授
顧問	岸本 忠三	大阪大学免疫学フロンティア研究センター特任教授
顧問	中村 桂子	JT生命誌研究館名誉館長

委員会

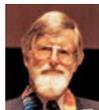
コスモス国際賞選考専門委員会 令和2年4月現在(50音順)

委員長	林 良博	独立行政法人国立科学博物館長
委員	池邊このみ	千葉大学大学院園芸学研究科教授
委員	池谷 和信	国立民族学博物館教授
委員	モンテ・カセム	大学院大学至善館学長
委員	亀崎 直樹	岡山理科大学生物地球学部教授
委員	ケビン・ショート	元東京情報大学環境情報学科教授
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環教授
委員	辻 篤子	中部大学特任教授
委員	白山 義久	国立研究開発法人海洋研究開発機構特任参事
委員	村上 哲明	東京都立大学大学院理学研究科教授

コスモス国際賞歴代受賞者

当協会の主事業である「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

1993年(第1回) 平成5年
ギリアン・フランス 卿
Sir. Ghillean Prance



英国・王立キュー植物園園長
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全域の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

1994年(第2回) 平成6年
ジャック・フランソワ・パロー
(物故)
Dr. Jacques Francois Barrau
(Deceased)



仏国・パリ国立自然史博物館教授
太平洋の鳥々の自然と人たちの暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これを基に、人間と食糧をテーマに、全地球的な視点から、ユニークな考察を発表した。

1995年(第3回) 平成7年
吉良龍夫
(物故)
Dr. Tatuo Kira
(Deceased)



日本・大阪市立大学名誉教授
光合成による植物の有機物生産の定量的研究を基に、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割を務めた。

1996年(第4回) 平成8年
ジョージ・ビールズ・シャラー
Dr. George Beals Schaller



米国・野生生物保護協会科学部長
40年にわたり、世界各地でさまざまな野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ:生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

1997年(第5回) 平成9年
リチャード・ドーキンス
Dr. Richard Dawkins



英国・オックスフォード大学教授
1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識をくつがえす大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して学界に論争を起こしている。

1998年(第6回) 平成10年
ジャレド・メイスン・ダイヤモンド
Dr. Jared Mason Diamond



米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授
医学部で生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらを基に、人類の歴史的な発展を再構成したユニークな考察を発表した。

1999年(第7回) 平成11年
呉 征鎰(ウー・チェン・イー)
(物故)
Dr. Wu Zheng-Yi
(Deceased)



中国・中国科学院昆明植物研究所教授・名誉所長
中国を代表する植物学者。中国を拠点に東アジア地域の植物の調査研究に取り組み、中国全土の植物の種の多様性を網羅する「中国植物志」の編集を主導、刊行を実現させた。

2000年(第8回) 平成12年
デービッド・アッテンボロー卿
Sir David Attenborough



英国・映像プロデューサー
野生生物のドキュメント映像のパイオニア。BBC時代から退社後を含め、約半世紀にわたって、地球上の野生の動植物の生の姿を、優れた映像で全世界に伝えた。

2001年(第9回) 平成13年
アン・ウィストン・スパーン
Prof. Anne Whiston Spirn



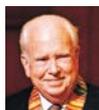
米国・マサチューセッツ工科大学教授
都市と自然は対立するものではなく、周辺の地域環境と調和し、その一部として存在する都市の構築が可能であるとし、都市が自然との調和をはかりながら発展する方策を示した。

2002年(第10回) 平成14年
チャールズ・ダーウィン研究所
The Charles Darwin Research Station



エクアドル
1964年設立の生物学研究所。南米エクアドル領のガラパゴス諸島で、ゾウガメ、イグアナなど、特異な固有生物の調査研究と保護に当たっている。

2003年(第11回) 平成15年
ピーター・ハミルトン・レーブン
Dr. Peter Hamilton Raven



米国・ミズーリ植物園園長
米国を代表する植物学者で、地球の生物多様性の保全を提唱した国際的な先駆者。常に地球的な視点で生命の問題を考え、学術と実践両面で自然と人間との共生に貢献した。

2004年(第12回) 平成16年
フーリャ・カラビアス・リジョ
Prof. Julia Carabias Lillo



メキシコ・メキシコ国立自治大学教授
途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、フィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合したプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題に優れた成果を挙げた。

2005年(第13回) 平成17年
ダニエル・ポーリー
Dr. Daniel Pauly



カナダ・ブリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所長兼教授
漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究。海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデル開発など、海洋生態系と資源研究の分野で優れた業績を収めた。

2006年(第14回) 平成18年
ラマン・スクマル
Dr. Raman Sukumar



インド・インド科学研究所生態学センター教授
ゾウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

2007年(第15回) 平成19年
ジョージナ・メアリー・メイス
(物故)
Dr. Georgina Mary Mace
(Deceased)



英国・ロンドン大学自然環境調査会議個体群生物学研究センター所長兼教授
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行なった。

2008年(第16回) 平成20年
ファン・ヴェン・ホン
Dr. Phan Nguyen Hong



ベトナム・ハノイ教育大学名誉教授
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、博士はマングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。

2009(第17回) 平成21年
グレッチェン・カーラ・デイリー
Dr. Gretchen Cara Daily



米国・スタンフォード大学教授
生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、「国連ミレニアム生態系評価」など国際的な取り組みに貢献するとともに、生態学・経済学を統合し、「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

2010年(第18回) 平成22年
エステル・ベルグレ・レオポルド
Dr. Estella Bergere Leopold II



米国・ワシントン大学生物学部名誉教授
花粉学者であり自然保護論者として博士の父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。

2011年(第19回) 平成23年
海洋生物センサス科学推進委員会
The Scientific Steering Committee of
the Census of Marine Life



海洋生物の多様性、分布、生息数についての過去から現在にわたる変化を調査・解析し、そのデータを海洋生物地理学情報システムという統合的データベースに集積することにより、海洋生物の将来を予測することを目指す壮大な国際プロジェクト「海洋生物センサス」を主導した。

2012年(第20回) 平成24年
エドワード・オズボーン・ウィルソン
Dr. Edward Osborne Wilson



米国・ハーバード大学名誉教授
アリの自然史および行動生物学の研究分野で卓越した研究業績をあげ、その科学的知見を活かして人間の起源、人間の本性、人間の相互作用の研究に努めた。

2020年度事業実績

2013年(第21回) 平成25年

ロバート・トリート・ペイン
(物故)

Dr. Robert Treat Paine
(Deceased)



米国・ワシントン大学名誉教授

生物群集の安定的な維持に捕食者の存在が不可欠なことを、明快な野外実験によって示し、キーストーン種という概念を提唱したことにより、生態学はもとより保全生物学や、一般の人々の生物多様性への理解に大きな影響を与えた。

2014年(第22回) 平成26年

フィリップ・デスコラ

Dr. Philippe Descola



仏国・コレージュ・ド・フランス教授

人類学者として、南米アマゾンに住む先住民アチュアの自然観とそここの自然と関わる諸活動に焦点を当て、これらの綿密な調査から哲学的な思想へと論を進め、自然と文化を統合的に捉える「自然の人類学」を提唱した。

2015年(第23回) 平成27年

ヨハン・ロックストローム

Dr. Johan Rockström



スウェーデン・ストックホルム・レジリエンス・センター所長

人類が地球システムに与えている圧力が飽和状態に達した時に不可逆的で大きな変化が起こりうる時、プラネタリーバウンダリーを把握することで、壊滅的な変化を回避でき、その限界がどこにあるかを知ることが重要であるという考え方を示した。

2016年(第24回) 平成28年

岩槻 邦男

Dr. Kunio Iwatsuki



日本・東京大学名誉教授 兵庫県立人と自然の博物館名誉館長

地球に存在する多様な生物の相互関係を統合的に解明する研究手法の構築により、シダ類をはじめとする植物系統分類学を発展させ、さらにアジアを中心とする生物多様性の保全に多大な貢献を果たした。

2017年(第25回) 平成29年

ジェーン・グドール

Dr. Jane Goodall



英国・ジェーン・グドール・インスティテュート創設者

野生チンパンジーの研究を長年続け、その全体像を明らかにするとともに、チンパンジーの住む森を保全するための植林活動や環境教育活動を行った他、世界の多くの国で実践されている環境教育プログラム「ルーツアンドシューツ」を創案した。

2018年(第26回) 平成30年

オギュスタン・ベルク

Dr. Augustin Berque



仏国・フランス国立社会科学高等研究院教授

和辻哲郎の著作「風土」から大きな影響を受け、風土概念をさらに拡充、深化、発展させ、「風土学(mésologie)」と名づけられる新たな学問領域を切り拓き、自然にも主体性があるという「自然の主体性論」を提唱した。

2019年(第27回) 令和元年

スチュアート・L・ピム

Dr. Stuart L. Pimm



米国・デューク大学教授

地球上の生物の食物網の複雑さや種の絶滅速度などについて、数理モデルを利用することにより理論的に明らかにし、地球規模の生物多様性に関する政策などに大きな影響を与えてきた。また、NGO「セービング・ネイチャー」を立ち上げ、生物保全活動プログラムを実践する団体を支援するなど、生態系や生物多様性の保全に対して、科学と実践の両面において多大な功績を果たしてきた。

顕彰事業

2. BIEコスモス賞

当協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）とその創設を合意した「BIEコスモス賞」を支援しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により2021年に開催を延期したドバイ国際博覧会での実施に向けてBIEと調整を行いました。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして農林水産省及び国土交通省が提唱する花のまちづくりコンクールの推進協議会に参画しました。

第30回 (2020年) 全国花の まちづくり コンクール

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会
(当協会、(公財)日本花の会、(公財)都市緑化機構、(一財)日本花普及センター)

入選/応募数：67点/1,690点

「花のまちづくりコンクール」は、今回で30回の節目を迎えました。今日、ガーデニングに見られるように、花や緑は生活の中でより身近なものとなっています。「花のまちづくりコンクール」は、様々な場所で、花を介した交流を活発に行ない、生き生きとした美しく心地よい地域を創り出すものです。また、周辺の環境、身近な自然を大切にすることは、地域の社会的、歴史的、文化的な資産を次世代に引き継ぐことにつながり、このような取り組みは、コミュニティの活性化や観光など地場産業の振興などにも結びつきます。

当協会は、推進協議会の一員として、本事業により、地域に望ましい循環型社会を築き、生活環境の改善を進めることで、住民の生活の質を一層高めていくことを目指しています。

農林水産大臣賞



井上 善人「水仙の丘」(兵庫県淡路市)



株式会社平井料理システム「仏生山の森」
(香川県高松市)

文部科学大臣賞



社会福祉法人浄英会 恵和こども園
(新潟県長岡市)

国土交通大臣賞



市民協働「熊谷の力」小江川地区1000本校
事業(埼玉県熊谷市)



鈴木 良枝・勝義「地域に愛されるオープン
ガーデン」(静岡県袋井市)

委員会

全国花のまちづくりコンクール審査委員会 令和2年4月1日現在(50音順)

- 委員長 齋藤京子 一般社団法人家の光協会理事
- 委員 稲垣道子 景観・まちづくりアドバイザー
- 委員 奥峰子 公益社団法人園芸文化協会常務理事
- 委員 賀来宏和 千葉大学大学院園芸学研究所客員教授
- 委員 佐藤亨 全国市長会経済部長
- 委員 服部勉 東京農業大学地域環境科学部造園科学科教授
- 委員 平田富士男 兵庫県立大学大学院教授
- 委員 町田誠 千葉大学園芸学部・横浜大学非常勤講師

助成・協働
事業

花博自然環境助成事業

花の万博の基本理念「自然と人間との共生」の継承発展・普及啓発につながる調査研究や活動並びに被災地復興を支援し、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、助成事業を実施しています。本事業は、平成16年度より一般公募助成として開始したもので、これまで272件余の団体を支援してきました。令和元年度より、広報効果を上げるため、平成23年度より実施している復興支援活動を本事業に統合した他、令和2年度実施より応募の条件の緩和として、助成率の変更等を行いました。助成対象は、従来同様、花の万博の基本理念の継承発展・普及啓発につながる調査や活動で、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的としています。

令和2年度
助成事業

令和2年度は25件の事業に助成をしました。

【調査研究】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
ひろしま野生動物研究グループ	ノネコは何を食べている？—在来種への影響を探る—	広島県	ノネコによる在来生物の捕食に伴う生態系への悪影響が世界各地で懸念されている。しかし、日本ではノネコの食性をはじめとする生態特性に関する情報は極めて乏しく、生態系への影響はほとんどわかっていない。本事業では、ロードキル(交通事故死)に遭ったノネコを活用し、胃内容物から本種の食性を明らかにする。
NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ	金華山島のシカの出産・繁殖調査と環境学習素材化	長野県	宮城県牡鹿半島の金華山で、個体識別したシカの存在・繁殖状況の長期追跡研究を継続する。同時に、牡鹿半島のシカと生態系の現状を把握して観光資源や環境学習の素材として地元へ提供し、半島部の復興に役立てる。
タンポポ調査・西日本実行委員会	タンポポ調査・西日本2020	大阪府	西日本19府県(近畿・中国・四国)で、府県実行委員会により市民参加型で、在来種(カンサイタンポポ、ヤマザトタンポポなど)、外来タンポポ、雑種タンポポの分布を継続調査を行う。
モンゴル森林再生促進研究会	「倒木遮蔽更新」仮説を応用した再生促進技術の開発	滋賀県	降水量が少ないため、山火事後の再生が困難なモンゴル北部で、森林観察で着想を得た「倒木遮蔽更新」仮説を応用した森林再生促進技術の開発を行い、その成果を現地の人々に共有してもらうために研究調査、発表、技術研修、展示、論文文化を行う。
NPO法人知的コミュニケーション研究機関連合	市原市における粘菌生息地の特定と生息条件	千葉県	土壌内有害物質の現行検査法では微生物に対する有害性を調べるほどの精度はない。粘菌フィザルムの変形体は微生物に影響する微量な金属イオンでも顕著な負の走性を示す。この特性を活用して粘菌生息地の物理化学的特性、共存する微生物との関連性を調べる。



ひろしま野生動物研究グループ



NPO法人生物多様性研究所あーすわーむ



モンゴル森林再生促進研究会



NPO法人知的コミュニケーション研究機関連合

【活動・行催事】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
NPO法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会	生物多様性保存型里山ビオトープの形成に関する事業	富山県	原生的な自然は少ないが、里山的自然が多く残る射水市において生物多様性・生態系の理念を啓発し、地域在来の動植物・絶滅危惧種の動植物の保存を図るとともに、過疎化や高齢化の進行による里山衰退を防ぎ地域の活性化を図る。本来、射水丘陵に生息していた絶滅危惧種のホクリクサンショウウオ等が自然産卵し生息できる環境を造成する。
ひらかたプレーパーク実行委員会	子どもの冒険遊び場プレーパークを支える人材育成事業	大阪府	冒険遊び場プレーパークを市民参加で作っていく。初年度、人材育成によりコアメンバーのスキルアップは達成できた。2年目にあたる来年度は、森づくりを行うにあたり、基本となる植生調査を行っていく。また、持続可能な森づくりを目指し整備に使うエネルギーにも配慮した活動を目指す。
第7回国際カキシンポジウム実行委員会	第7回国際カキシンポジウム	滋賀県	本シンポジウムは、国際園芸学会の下に創成した下記ワーキンググループが主体となり、1996年の第1回大会以来、4年毎にカキ生産国で開催する国際会議である。第7回大会の開催国は日本と決定し、約20か国の研究者、生産者など100～200名の参加者を想定し、研究情報交換、国際交流促進を目的として開催する。
源氏藤袴会	藤袴香る歴史・文化・伝統の町づくり	京都府	1. 地域に花の魅力と歴史、文化、伝統を持つ和の花の伝承の大切さを理解してもらい保全育成者の参加を呼び掛け育成活動を推進し5月～11月まで作業する。2. 地域育成者の藤袴針を地域内の中心数カ所に展示して香りが誘う賑わいの町を創る藤袴祭を10月11日～14日の4日間歴史、文化、伝統をテーマに開催する。
公益財団法人金沢子ども科学財団	里山の自然を学ぼう～角間の里山自然体験	石川県	金沢市内の里山「角間の里」にて、小学3年生から中学生までの児童生徒に対して、季節ごとの自然観察や、タケノコ掘りや昆虫採集といった体験活動を行う。
東北植物研究会	第7回全国風穴サミット・第4回東北植物サミット	岩手県	風穴(フウケツ)とは大地から冷風が吹き出る場所で、特異な植物相が見られる。明治期は養蚕の発展を支える天然の冷蔵庫としても利用されたが、近年は忘れ去られようとしている。本事業では風穴がもたらす特異な自然とその利用に関するサミットを行う。電力を必要としないエコな風穴の理解とその利用拡大に寄与したい。
ウミガメネットワーク	伊勢湾にやってくるアカウミガメの実態	三重県	絶滅危惧種であるウミガメの生態についてこれまで以上に詳しく調査し、活動していきたいと思う。繁殖のため春先に伊勢湾にやってくるアカウミガメについて多角的に調査し、その成果を今後のウミガメ保護活動に生かしていく。
NPO法人はちろうプロジェクト	大瀨村での外来生物の駆除と在来生物の保全活動	秋田県	本活動の目的は、大瀨村村内で外来生物を駆除、在来生物の農地の保全を目指すことです。環境省のレッドデータブックに載っている生物や在来魚類がごく普通に生息する水域を取り戻します。農地は、ウシガエルの鳴き声やアメリカザリガニの巣穴が確認されない農地を取り戻します。
つくし野ビオトーププロジェクト	地域で親子が生物多様性を総合的に学ぶ体験的環境学習	東京都	「命」をキーワードに、年間プログラムで身の回りの環境学習・体験や作物づくりを通して、自然との共生を体験的環境学習として学ぶ。生物多様性・生態系サービス・SDGsにも配慮。参加者は3歳児から小学校～高校までの子どもと親が中心。近年、未就学児の参加者が急増。地域住民主催で14年目の活動を継続・実施予定。
番所山を愛する会	白浜町番所山に桔梗平を復活させよう	和歌山県	吉野熊野国立公園にある番所山は、江戸時代には松林があり、キキョウが咲いていたことから桔梗平とよばれていた。現在はフィールドミュージアム番所山として整備され、遷移の進んだ常緑広葉樹林もあるが、一部に裸地も残されている。その裸地に在来種(郷土種)を植栽して桔梗平を再現し、景観を保全する。
グリーンボランティア「いこま宝の里」	“明るい森づくり”事業	奈良県	生駒市から管理委託(無償)を受け、平成24年度から5年計画で「真弓どんぐり公園(約1ha)」の整備を実施、当初はジャングル状態の樹林を間伐して「明るい森づくり」を目指し地域の子供たちが安全には入れる状態まで復活しました。今年度から台風被害の風倒木類の整備を進めてさらに安全な森づくりを目指したい。
白鷺学校運営協議会	姫路城中曲輪バタフライガーデン創造事業	兵庫県	世界文化遺産姫路城の中曲輪内のしらすぎの小径・姫路市立白鷺小中学校の校庭を中心に、姫路市の市蝶であるジャコウアゲハを中心に多様な蝶が飛び交う空間づくりを行い、400年前の姫路城築城当時に蝶が飛び交っていた風景の再現を行う。中曲輪内にプランターを活用し食草のウマノズクサを植栽し育成する。

助成・協働
事業



NPO法人自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会



ひらかたプレーパーク実行委員会



源氏藤袴会



公益財団法人金沢子ども科学財団



ウミガメネットワーク三重



つくし野ビオトーププロジェクト

【復興活動支援】

● 団体名	● 事業名	● 団体所在地	● 事業の概要(申請時)
NPO法人スマイルシード	被災地の身近な地域の「里地里山農地の景観再生」活動	宮城県	被災地の失われつつある、身近な地域の里地里山農地の整備・美化・植栽・植樹・農地耕作・地域コミュニティーの場所としての新しい環境づくりのための景観再生を行う。①大津波で破壊した農地の整備・耕作・植樹・美化 ②島の里山の整備・植樹・耕作 ③地域交流多世代のための野外環境体験活動。
福興浜団	菜の花迷路一般開放に向けた菜の花畑整備	福島県	東日本大震災による津波で全て流された南相馬市原町区萱浜地区に、菜の花畑を造成し、そこに迷路を作り、GW期間中に一般開放する。菜の花迷路には親子連れからお年寄りまで、市内はもちろん県内外から多くの人に訪れてもらい、楽しみ、笑顔になってもらうとともに、津波被害を受けた地区の現状を見て、知ってもらう。
坪井川遊水地の会	坪井川遊水地桜並木プロジェクト	熊本県	坪井川遊水地一帯の河川管理上許容される範囲で桜の苗木を植え、地域住民組織の協力によって桜並木を育生、災害からの創造的復興の象徴としての桜並木の名所を作る。
久慈市立小袖小学校PTA	天與の花を咲かす喜び—小袖プロジェクトⅡ—	岩手県	「寄せ植えプランター」や「花とみどりの花壇」を作り、震災の被害を受けた人々の心を笑顔いっぱいにする。久慈市立小袖小学校PTAが中心になり、小袖保育園、小袖老人クラブと連携をとり、より世代を広げた形で実施する。
吉里吉里花いっぱい運動実行委員会	吉里吉里花いっぱい運動	岩手県	東日本大震災の被害を受けた吉里吉里フィッシャリーナに桜を植樹し、復興の象徴として、再び人が集まるにぎわう場所を創る。
小高はなみちプロジェクトチーム	小高まちなか菜園・親子菜園スクール	福島県	原発被災地である小高区において、まちなかに発生した空き地を菜園として活用し、帰還した住民が集い憩える場所の創出を目指す。本事業では特に子育て世代を対象とし、1家1台レイズドベッドを使い、野菜の栽培を学びながら、空き地を活かした小高での豊かな暮らし方を一緒に考えていく。

NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク	東日本大震災復興支援南相馬市“油菜のさと”推進事業	滋賀県	①ナタネ播種ボランティア活動や搾油をしながら、2011年以來の南相馬「菜の花プロジェクト」を深化・進化させる。②資源・ヒト・コトの行きかう循環の場“油菜のさと”のモデル図をひとつ立ち上げて行く。③セシウムを含む菜種かすを主原料のバイオガスプラント試行など農業者を支える。
NPO法人ハーブとスローフードのまちづくり	豪雨により水没した畑に盛土をして花園にする活動	京都府	2019年夏、度重なる台風や豪雨により植栽可能な程度まで復元できたかつての遊休地であった畑は、蒔いたハーブの種ごと一度に水没した為、盛土をして現状回復させた上で子供への植栽体験を通じた人材育成をしながら市民の集える花の庭園を作る。



NPO法人スマイルシード



福興浜団



久慈市立小袖小学校PTA



NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク

委員会

花博記念協会助成事業審査委員会委員 令和元年5月21日現在(50音順)

委員長 丸山 宏 名城大学名誉教授

副委員長 林 孝洋 近畿大学農学部農業生産科学科教授

委員 佐倉 統 東京大学大学院情報学環教授

委員 永田 萌 イラストレーター・絵本作家

委員 鷺谷いづみ 東京大学名誉教授

副委員長 長村 智司 一般社団法人フラワーソサイエティ会長

委員 久山 敦 一般財団法人大阪スポーツみどり財団咲くやこの花館館長

委員 須磨佳津江 キャスター・ジャーナリスト

委員 吉田 昌弘 株式会社空間創研取締役会長

令和3年度 助成対象の決定

令和3年度の助成事業を決定しました。

【公募】 公募期間：令和2年8月3日(月)～9月11日(金)

【審査】 審査期間：令和2年10月～令和3年2月

【決定】 助成事業審査会の審査結果として、対象30件が理事長に答申され決定しました。また、この内容は第107回理事会にて報告しました。

普及啓発・
国際交流事業

1. 花育推進事業

花や緑による情操教育を目的とした花育活動を推進する全国花育推進協議会に参画し、関係団体とともに講習会やセミナー等を実施しました。



保育所でのコショウランの栽培、ラッピング講習



保育所での生け花講習

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

「春の都市緑化推進運動期間(4月～6月)」での普及啓発活動、「都市緑化月間(10月)」期間中のSNSを活用した都市緑化の普及啓発等様々な活動を、都市緑化推進運動協会に参画し、支援しました。

また、10月24日(土)に福井県福井公園において開催された第31回全国「みどりの愛護」のつどい、10月28日(水)に東京都千代田区で開催された「ひろげよう そだてようみどりの都市」全国大会への協力を行いました。



出典：福井県ホームページ

3. 普及啓発事業

花の万博が開催された大阪において、理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と協働し、実施しました。

はならんまん 2020

大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催された「はならんまん2020」に参画しました。

本事業は、花の万博を契機に設けられたもので、大阪市において育成してきた緑化ボランティアの活用及びボランティア同士のネットワーク構築を目的に、主に市民花壇の設置を通して、花と緑あふれるまちづくりを推進する機運を高めるものです。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度は開催規模を縮小しての開催でしたが、両日も天候に恵まれ、家族連れなど数多くの方々を訪れ、大いににぎわいました。

開催日：令和2年11月21日(土)～22日(日)

場 所：花博記念公園鶴見緑地(大阪市鶴見区)

来場者：約50,000名

主 催：当協会、大阪市

内 容：市民花壇の作成及び展示

鶴見緑地内花壇整備及び花卉による飾り付け

花と緑の相談実施

花と緑のまちづくり普及啓発



普及啓発・ 国際交流事業

花の万博 30周年 記念事業 メモリアル展

1990年の国際花と緑の博覧会の30年の節目として、花の万博理念の系譜と拡がりを見直し再認識できる「花の万博30周年記念メモリアル展」を開催しました。

また、メモリアル展に合わせて、花の万博当時の資料やグッズ等の寄附を募り、約150点をいただきました。

開催日時：令和2年11月17日(火)～12月13日(日)午前10時～午後5時

場 所：咲くやこの花館「2階展示室」

展示区分：①花の万博の開催意義とその概要

花の万博の開催意義、基本理念、開催の成果等を花の万博の全体像をパネル等で紹介。

②山・野原・街の各エリア

花の万博会場の構成に習い、山のエリア、野原のエリア、街のエリアに区分し、それぞれのエリアで繰り広げられた多彩な花壇展示や国際的なイベントの情景を紹介。

③パビリオン模型・コンパニオンユニフォーム・メモリアルグッズ

各エリアに出展されたパビリオン模型や各館のコンパニオン・ユニフォーム展示、国内外の賓客等に渡された記念品、ご芳名帳、来場者向けのマップ類等のグッズ展示。

④皇室・皇族および海外の賓客のご来場の写真記録

天皇・皇后両陛下、花の万博名誉総裁の皇太子殿下をはじめとする皇室・皇族のご来場や、海外の賓客のご来場写真パネルの展示。

⑤理念継承事業

当協会をはじめ、博覧会を契機に設立された各団体等の事業等紹介パネルの展示。

⑥2025年大阪・関西万博および2027年横浜国際園芸博覧会

今後、日本国内にて開催が予定されている二つの国際博覧会の概要及び万博の桜2025事業の紹介。



万博の桜 2025

2025年大阪・関西万博への期待感や機運を高め、関西の緑化環境の向上をめざす、募金による2025本の桜の植樹事業の実行委員会として、事業の広報を行いました。具体には大阪主要ターミナルでのチラシ配架や大阪府、大阪市、当協会における各催事でのチラシ配布及び在阪経済団体傘下企業等へのチラシ配付等を実施した他、花博記念公園鶴見緑地にて植樹式を開催しました。

また、本事業を令和3年度も継続して行えるよう大阪国税局との調整協議も行いました。

万博の桜 2025 植樹式

日 時：令和2年11月21日(土)午後12時30分～1時

場 所：花博記念公園鶴見緑地

出席者：安藤忠雄(万博の桜2025実行委員会委員長)

石毛博行(公益社団法人2025年日本国際博覧会協会事務総長)

角 和夫(公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会理事長)

松井一郎(大阪市長)

吉村洋文(大阪府知事)

聖乃あすか(宝塚歌劇団 花組(2025年日本国際博覧会アンバサダー))他4名

シンポジウム
「新しい緑の
あり方を探る」

花の万博の30周年を記念し、大阪府、大阪都市公園協議会の共催でシンポジウムを開催し、事後には、動画情報をインターネット上で公開しました。

趣 旨：1990年に大阪「鶴見緑地」で開催された花の万博は、地球規模での温暖化、都市化の進展による緑の減少、酸性雨による森林の消失など世界的な環境問題に関心が高まる中、「自然と人間との共生」をテーマに、開催された博覧会であった。当時最新の緑化技術、栽培技術はもとより自然と人間がどのように関わるべきか問うものであったが、あれから30年、異常気象の進行、コロナ禍で生活が変容した今、緑により何ができるのか。また、当時の万博の理念はどのように広がり、受け継がれたのか。公園行政、パークマネジメント、緑化技術の三つの分野からの講演を元に議論を深め、今後の道筋を示す。

日 時：令和3年1月22日(金)午後1時～4時

場 所：インターネットLIVE中継

出演者：五十嵐康之(国土交通省都市局公園緑地・景観課長)
堀越良一(大和リース株式会社執行役員大阪本店長)
木田幸男(一般社団法人グリーンインフラ総研代表理事)
梶木典子(神戸女子大学教授)



その他

花の万博30周年を記念した各団体の開催等に協力しました。

- ・大阪市 花の万博開催30周年記念イベント「PARK JAM」
- ・大阪市鶴見区役所「広報つるみ(花の万博特集号)」「つる魅力検定(花の万博クイズ)」
- ・花博記念公園鶴見緑地指定管理者「花ずきんちゃんパネル」等の設置



普及啓発・ 国際交流事業

4. その他の普及啓発

国際WEB
シンポジウム
持続可能な
「未来を拓く
～コロナ時代
における
自然と人間
との共生～」

人類の喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症をテーマにコスモス国際賞受賞者等による国際WEBシンポジウムを開催しました。また、事後には動画編集を行い、インターネット上で公開しました。

趣 旨：新型コロナウイルス感染症は、人類社会に多大な影響を及ぼしている。パンデミックは未だ収束をみず、各国、地域は、社会経済活動に大きな制約を受けている。世界中で動き始めたコロナ禍からの復興に際し、人類が直面する多くの環境問題を解決し、次のパンデミックを防ぐため、これまでの社会や経済の姿を根本から変え、プラネタリー・バウンダリー（地球の制約）の範囲内で経済活動を営む社会をつくる契機とすることが求められている。

国際花と緑の博覧会記念協会は「自然と人間との共生」という理念を掲げ、自然と人間とが相互に関係し、作用し合うという自然観に基づき「コスモス国際賞」を実施している。また、地球環境戦略研究機関は、持続可能な社会を目指した変革についての研究と実践を展開している。

コロナ禍の今、コスモス国際賞の歴代受賞者等の知見に触れることで、ウィズ/ポスト・コロナ社会の姿を洞察し、今後、我々はどこに向かうべきか、今、何をすべきかを探ることで、人類の航路の羅針盤とすることを目指す。

日 時：令和3年2月3日(水)午後3時～午後4時(日本時間)

主 催：当協会、(公財)地球環境戦略研究機関

出演者：◆パネリスト

グレッチェン・デイリー

(2009年(第17回)コスモス国際賞受賞者 スタンフォード大学教授)

ヨハン・ロックストローム

(2015年(第23回)コスモス国際賞受賞者 ポツダム気候影響研究所所長)

武内和彦(コスモス国際賞委員会委員 地球環境戦略研究機関理事長)

◆コーディネーター

井田徹治(共同通信社編集委員)



ホームページ等
の運営・管理

SNSの活用や動画サイトにコスモス国際賞の受賞者の動画を公開するなど、情報発信を行いました。



協賛・後援等

花の万博の理念の普及・啓発のため、各種団体が実施する行催事等に協賛、後援等を行いました。また、各事業の広報等を実施しました。

後援等一覧

● 催事名(開催時期)	● 開催場所	● 主催	● 名義等
令和2年度大阪府立花の文化園「幼児・小中学生花の絵画展」(R3.1.5～2.7)	大阪府立花の文化園イベントホール(大阪府河内長野市)	大阪府、住友林業緑化・E-DESIGN共同企業体	後援 会長賞
第75回日本おもと名品展(R2.11.17～11.19)	刈谷市産業振興センター あいおいホール(愛知県刈谷市)	(公社)日本おもと協会	後援 会長賞
令和2年度「都市緑化月間」(R2.10.1～10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協賛
小品盆栽フェア第29回春雅展(R3.3.26～3.28)	花博記念公園鶴見緑地内 ハナミズキホール(大阪市鶴見区)	(公社)全日本小品盆栽協会	後援 会長賞



花の文化園



第75回日本おもと名品展

情報誌の刊行

「自然と人間との共生」に関わる話題を発信する協会情報誌『KOSMOS』(変形A5版24頁2,000部)の7号を刊行しました。本号の特集には、2015年コスモス賞受賞者ロックストローム博士、コスモス賞委員会委員の武内和彦博士による、ポストコロナを俯瞰するニューノーマルについてのコラムを掲載しました。



情報の提供

今後開催が計画されている博覧会や各種イベント等の主催者に対し、博覧会や協会事業情報、写真等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体等	11件
企業・個人	7件

広報

各事業の周知等のため、印刷物を作成し配布等した他、協会の郵便計器に花ずきんちゃんマークを取り入れました。



組織運営

理事会 令和2年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第105回理事会 (決議の省略)	令和2年 6月3日(水)	——	令和元年度事業報告及び収支決算について 特定資産の取り崩しについて 定時評議員会の招集について
第106回理事会 (決議の省略)	令和2年 12月14日(月)	——	臨時評議員会の招集について 評議員会に提出する評議員候補者(案)について 評議員会に提出する監事候補者(案)について
第107回理事会 (決議の省略)	令和3年 3月18日(木)	——	令和3年度資産運用方針書について 特定資産について 特定費用準備資金の保有について 令和3年度事業計画及び収支予算について 顧問、参与の選任について コスモス国際賞委員会委員長及び委員の選任について 就業規則の改正及び在宅勤務規程の制定について

評議員会 令和2年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第56回評議員会 (決議の省略)	令和2年 6月25日(木)	——	令和元年度事業報告及び収支決算書類の承認について 特定資産の取り崩しについて
第57回評議員会 (決議の省略)	令和2年 12月21日(月)	——	評議員の選任について 監事の選任について

令和2年度決算

貸借対照表 令和3年3月31日現在

単位:円

科 目	当年度	科 目	当年度
I 資産の部		II 負債の部	
1.流動資産		1.流動負債	
現金預金	93,829,818	未払金	7,868,034
未収収益	88,419,410	預り金	875,788
流動資産合計	182,249,228	賞与引当金	3,395,500
2.固定資産		流動負債合計	12,139,322
(1)基本財産		2.固定負債	
基本財産定期預金	860,344,700	退職給付引当金	50,705,600
基本財産投資有価証券	29,655,300	固定負債合計	50,705,600
基本財産合計	890,000,000	負債合計	62,844,922
(2)特定資産		III 正味財産の部	
記念基金	10,250,700,227	1.指定正味財産	
退職給付引当資産	50,705,600	寄付金	10,000,000,000
国際園芸博覧会出展事業積立資産	13,000,000	基本財産運用益	90,000,000
法人運営安定化資産	60,000,000	特定資産運用益	800,000,000
特定資産合計	10,374,405,827	特定資産評価差額金等	250,700,227
(3)その他固定資産		指定正味財産合計	11,140,700,227
投資有価証券	1,737,136	(うち基本財産への充当額)	(890,000,000)
什器備品	8	(うち特定資産への充当額)	(10,250,700,227)
その他固定資産合計	1,737,144	2.一般正味財産	244,847,050
固定資産合計	11,266,142,971	(うち基本財産への充当額)	(0)
資産合計	11,448,392,199	(うち特定資産への充当額)	(73,000,000)
		正味財産合計	11,385,547,277
		負債及び正味財産合計	11,448,392,199

正味財産増減計算書 令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

単位:円

科目	当年度
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	3,949,508
基本財産受取利息	3,949,508
特定資産運用益	226,460,188
記念基金受取利息	226,438,089
特定資産受取利息	22,099
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
経常収益計	234,409,696
(2) 経常費用	
事業費	85,230,304
役員報酬	8,336,076
給与手当	33,646,803
法定福利費	5,771,688
退職給付費用	1,628,261
賃金	1,477,900
職員厚生費	130,141
会議費	43,263
旅費交通費	32,312
通信運搬費	1,289,143
消耗什器備品費	206,062
消耗品費	1,128,808
印刷製本費	914,617
光熱水料費	2,326,654
修繕費	100,100
役務費	98,560
委託費	7,437,035
賃借料	4,151,003
使用料	575,139
保険料	213,472
諸謝金	2,208,069
租税公課	2,100
支払負担金・会費	5,325,809
支払助成金	7,957,970
支払手数料	219,486
雑費	9,833
管理費	52,473,940
役員報酬	3,572,604
給与手当	31,175,465
法定福利費	5,969,647
退職給付費用	1,534,639
賃金	633,385
職員厚生費	122,659
会議費	18,542

科目	当年度
旅費交通費	13,848
通信運搬費	552,491
消耗什器備品費	88,312
消耗品費	483,775
印刷製本費	391,978
光熱水料費	997,138
修繕費	42,900
役務費	42,240
委託費	3,187,301
賃借料	1,779,001
使用料	246,488
保険料	91,488
諸謝金	946,315
租税公課	900
支払負担金・会費	484,544
支払手数料	94,066
雑費	4,214
経常費用計	137,704,244
当期経常増減額	96,705,452
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益計	0
(2) 経常外費用	
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	96,705,452
一般正味財産期首残高	148,141,598
一般正味財産期末残高	244,847,050
II 指定正味財産増減の部	
受取寄付金	4,000,000
受取寄付金	4,000,000
基本財産運用益	3,949,508
基本財産受取利息	3,947,508
特定資産運用益	539,448,851
記念基金受取利息	227,680,851
記念基金投資有価証券償還益	311,768,000
特定資産評価損益等	469,223,645
記念基金投資有価証券評価損益等	469,223,645
一般正味財産への振替	△235,630,359
一般正味財産への振替	△235,630,359
当期指定正味財産増減額	780,991,645
指定正味財産期首残高	10,359,708,582
指定正味財産期末残高	11,140,700,227
III 正味財産期末残高	11,385,547,277

財団の概要(令和3年4月1日現在)

名称	公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年(平成3年)11月1日
公益法人移行日	2013年(平成25年)4月1日
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

評議員 令和3年4月1日現在(50音順)

評議員	青木保之	(学)東洋女子学園理事
評議員	尾崎裕	大阪商工会議所会頭
評議員	角英夫	(特)日本放送協会理事・大阪拠点放送局長
評議員	金田章裕	(大)京都大学名誉教授
評議員	佐藤友美子	(学)追手門学院大学地域創造学部教授
評議員	高橋徹	大阪府副市長
評議員	田中清剛	大阪府副知事
評議員	土井元章	(大)京都大学大学院農学研究科教授
評議員	羽田光一	(公社)日本家庭園芸普及協会顧問
評議員	畑中孝晴	(一財)日本花普及センター評議員
評議員	正木啓子	(公社)日本都市計画学会関西支部顧問
評議員	増田昇	(大)大阪府立大学名誉教授
評議員	松下正幸	(公財)松下幸之助記念志財団理事長

役員 令和3年4月1日現在(50音順)

会長	御手洗富士夫	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
理事長	角和夫	阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役会長グループCEO
専務理事	田中充	常勤
理事	今西英雄	(大)大阪府立大学名誉教授
理事	本間和枝	(公財)宇治市公園公社顧問
理事	森本幸裕	(大)京都大学名誉教授
理事	和田新也	(一社)日本造園建設業協会会長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	崎元利樹	(公財)関西・大阪21世紀協会理事長

顧問 令和3年4月1日現在(50音順)

顧問	今井敬	(一社)日本経済団体連合会名誉会長
顧問	中川和雄	大阪日韓親善協会会長
顧問	牧野徹	アイング(株)最高顧問
顧問	三井康壽	(一財)住宅生産振興財団会長

参与 令和3年4月1日現在(50音順)

参与	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
参与	中村桂子	JT生命誌研究館名誉館長
参与	波多野敬雄	(学)学習院名誉院長
参与	松本洋	(一財)日本国際協力システム顧問
参与	ルイ・サトウ	在仏建築家

協会事務局 (TEL:06-6915-4500、FAX:06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL:06-6915-4500)
〈管理運営、評議員会・理事会関係、予算・決算、資産運用、広報等〉
- ◆企画事業部 (TEL:06-6915-4516、4513)
〈顕彰事業、助成事業、普及啓発、国際交流、フォーラム、セミナー、調査研究・資料収集等〉

顕彰事業

1. 2021年(第28回)コスモス国際賞

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という。)の「自然と人間との共生」という理念に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため、2021年のコスモス国際賞(第28回)事業を実施します。

令和3年度は、2021年の受賞者選考及び決定に加え、2022年の選考準備を行います。2021年の受賞者は7月下旬に決定し、11月に授賞式を開催します。

2. BIEコスモス賞

博覧会国際事務局(BIE)が実施し、当協会が協力する「BIEコスモス賞」については、「2020年ドバイ国際博覧会」(新型コロナウイルス感染症(以下「感染症」という。))により2021年に延期開催)において実施します。

3. 全国花のまちづくりコンクール

花の万博を契機に、「花とみどりの国づくり及びまちづくり」を目的として創設された「花のまちづくりコンクール」については、推進協議会に参画し、実施します。

助成・協働事業

1. 花博自然環境助成事業

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究」、「活動・行催事」及び被災地における「復興活動支援」のため、公募により助成事業を実施します。

2. 地域協働事業

助成事業の成果発表と市民活動団体等の交流を目的とした「花と緑の交流広場」(呼称:「自然と人間との共生フェスタ」)については、感染症対策を施し、実施形態を整理した上で実施します。

普及啓発事業及び国際交流事業

1. 次世代育成事業

協会事業に関係する学者、知識人等を講師として小学校へ派遣する「小学校講師派遣事業」及び、幼・保育園児に自然に親しむ機会を提供する「鶴見緑地昆虫クエスト大作戦」については、感染症の対策を施し、慎重な運営により実施します。

2. 都市緑化推進運動等への協力事業

都市公園の整備、民有地の緑化により都市における豊かな生活環境の実現を目的とする「都市緑化推進運動」、及び住民参画のもと創意・工夫を生かしたまちづくり推進を目的に実施される「まちづくり月間」に協力します。

3. 普及啓発事業

花の万博開催の地元である大阪で開催される「大阪都市緑化フェア」や「はならんまん」などの普及啓発イベントに協力するとともに、みどりのまちづくりに貢献する美しい景観となっている建物や緑化活動を表彰する「みどりのまちづくり賞」に参画し、実施します。

また、「コスモス国際賞受賞記念講演会」を東京、大阪で一般や高校生を対象に、オンラインも導入し実施します。

当協会設立30周年記念事業として催事等を実施する他、2025年関西・大阪万博の機運喚起と街の緑化をめざした「万博の桜2025」を前年度に引き続き、実行委員会事務局として、PRや寄附の受け入れ等を進めます。

情報発信については、引き続き情報誌『KOSMOS』の刊行を行うと共に、「小学校講師派遣事業」「自然観察教室」に係る講義の動画を収録し、ソーシャルメディアにて活用する他、児童向けのコスモス国際賞受賞者読本の作成、配付などを行います。また、引き続き、花の万博資料や当協会の蓄積情報をアーカイブとしてのデータベース化を進めます。

4. 国際交流事業

台湾の自然の保護、研究の状況を知る「国際バーチャル自然見学ツアー in台湾」を、日台をWEBでつなぎ、実施する他、現地での事業再開に向けて調査、検討する。

調査研究・資料収集事業

生物多様性等に関する調査

花の万博の理念継承に資する生物多様性の保全や、動植物の生息地や保存等に関する情報収集等を行います。

また、過年度助成団体等との連携や、協会事業に沿った企業のSDGsやメセナの取り組みを調査し、協働の方策を検討します。



公益財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会
〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号
TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524
<https://www.expo-cosmos.or.jp/>